

## 第14回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」

### 結果概要

1. 日時：令和3年11月15日（月）15時30分～16時15分
2. 場所：本庁舎5階大会議室（WEB会議によるリモートでの開催）

## 第14回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」結果概要

1. 日時：令和3年11月15日（月）15時30分～16時15分

2. 場所：本庁舎5階大会議室（WEB会議によるリモートでの開催）

3. 出席者：別紙のとおり

### 4. 議事概要

#### （1）開会

○司会 それでは、ただいまから第14回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」を開会いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきます千葉県オリンピック・パラリンピック推進局開催準備課の小高と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

#### （2）あいさつ

○司会 それでは、次第により会議を進めさせていただきます。

初めに、本会議の会長であります熊谷知事から御挨拶を申し上げます。

○熊谷会長 皆様、こんにちは。本日は大変お忙しい中会議に御参加をいただきありがとうございます。ございます。

私が知事に就任してから初めての推進会議となります。本来であれば、大会前に会議を開催し、委員の皆様方に挨拶を申し上げるべきところでありましたけれども、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、事務局から大会の動向に関する情報を適宜提供させていただいてきたところです。

まずは何よりも、大会を無事に終え、会場自治体としての責任を果たすことができましたのは、委員の皆様を始め、関係する全ての方々の御理解・御協力の賜物であり、改めて御礼申し上げます。

幕張メッセは1会場としては最多となる7競技が、釣ヶ崎海岸では史上初のサーフィン競技が開催され、大会には、本県にゆかりのある数多くの選手が出場し、目覚ましい活躍をされました。パラリンピックでは、障害を乗り越えて、限界に挑戦するパラアスリートの姿に、多くの県民が心を動かされたことと思います。

大会のあり方に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、委員の皆様と事前に共有していた形とは大きく異なるものとなりましたけれども、大会に向けて何年もかけて皆様と共に積み重ねてきた取組は、本県の貴重な財産として残っていくものだと考えています。

オリンピック・パラリンピックが、大会の開催がゴールということではなく、そこからもう一度更なる新たなスタートと、そういうような位置づけの中で、大会に至る道のりで皆様と共に

取り組んできたこと、共有してきた価値観、それを財産として、大会後のこれからの千葉県づくりのためにどう生かしていくのか、ここが本当に意義のある部分だと考えています。

本日は、大会に向けてそうした皆様と連携して進めてきた取組の実績を御報告させていただくとともに、こうした取組等を、今後どのように本県の持続的な発展につなげていくか、御意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 次に、本会議の佐久間議長から、御挨拶をいただきます。佐久間議長、よろしくお願いいたします。

○佐久間議長 推進会議議長の佐久間でございます。委員の皆様には、御多忙の折、会議に御出席いただきまして、感謝申し上げます。

皆様との推進会議は、2年前の9月以来の開催となります。大会まで残り1年となり、大会に向けた一層の機運醸成と、共生社会の実現に向けた先進的な取組事例の紹介を行い、大会の成功に向けた決意を新たにすることを覚えています。

しかし、その後、新型コロナウイルスの感染拡大や史上初の大会延期など、これまで考えもしなかった事態となりました。委員の皆様を始め、関係者の方々は前例がなく、先行きも見通せない状況が続き、様々な御心配や御苦勞がおありだったかと思えます。

そうした中、大会は、無観客ではありましたが、開催にたどり着き、無事に閉幕を迎えることができました。今日に至るまでの皆様の御尽力に、議長として、改めて敬意を表します。

今回のオリンピック・パラリンピックでは、多くのことが制約され、皆様が期待されていた姿での開催ではなかったかもしれません。しかし、だからこそ、これまでの取組を振り返るとともに、今後の方向性について意見を交わすことが大切なのではないかと思っております。

本日は、よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

### (3) 議事

○司会 それでは、これより議事に入らせていただきます。佐久間議長、よろしくお願いいたします。

○佐久間議長 よろしく申し上げます。本日の会議でございますが、私も含めてリモートによる参加となりました。そこで、議事進行につきましては、全体の様子を把握できる事務局に一任させていただきます。それでは事務局よろしくお願いいたします。

○内田オリンピック・パラリンピック推進局長 オリンピック・パラリンピック推進局長の内田

です。事務局より議事を進行させていただきます。議事の進行につきましては、まず、事務局から議題1、議題2について一括して御説明させていただきます。その後に皆様から御意見をいただきたいと思っております。それでは、議事を進めさせていただきます。

**○関開催準備課長** 開催準備課長の関でございます。よろしくお願ひいたします。それでは、資料1「『2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略』に基づく取組」について、御説明いたします。

1 ページ目を御覧ください。オリパラに向けた取組については、5つの基本方針とその具体的な9つの戦略に基づき、県と企業、団体、大学、市町村などが、方向性を共有し、連携しながら進めてまいりました。それでは、戦略が策定された平成26年度から展開された取組の成果を報告させていただきます。

2 ページ目を御覧ください。戦略1は、「キャンプ・国際大会・MICE 誘致」です。事前キャンプや国際大会の誘致は、地域のイメージアップを図る絶好の機会であり、地域スポーツのレベルアップや施設の有効活用、更に地域の活性化にもつながります。県では、これまで培ってきたノウハウを活かすとともに、関連情報を一元化するため、スポーツコンシェルジュを設置し、官民一体で誘致活動を進めました。その結果、大会に向けては、17市及び2町が18か国と事前キャンプの実施について合意いたしました。一部の国のキャンプは取り止めとなり、また、実施された中でも交流事業等は大きく制約されましたが、各国との国際交流を今後も継続する動きも出ているところでございます。また、ポートアリーナや釣ヶ崎海岸においては、競技開催地としての知名度を生かし、パラスポーツやサーフィンの国際大会が誘致・開催されました。このほか、事前キャンプを誘致する過程において、地域の強みや魅力を改めて見つめ直し、スポーツによる地域の活性化を図る取組も生まれたところです。

戦略2は、「競技力の向上・スポーツの普及」です。今大会では、本県ゆかりの選手が大活躍したところですが、県でも、強化指定を中心に、アスリート強化・支援の取組を進めてきました。また、パラリンピック会場を満員にすることを目標に、官民一体で、パラスポーツや県内開催競技の普及・振興に取り組んできました。具体的には、競技団体と連携した学校訪問による競技体験や、県内に誘致したパラスポーツの国際大会を地元の小学生が観戦する取組を進めました。このほか、全ての県立特別支援学校にボッチャやゴールボール等の用具を整備し、地域住民や近隣の小中学生と共に楽しむことができるスポーツ大会や、パラアスリートの講演会を開催したところでございます。

3 ページ目を御覧ください。戦略3は、「成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化」です。大会の公式空港として、多くの選手・関係者の出入国の玄関口となった成田空港に

については、大会後も見据えて国際線・国内線のネットワークの強化や空港内の利便性・安全性の向上が進みました。また、大会会場周辺を中心に、上総一ノ宮駅の東口開設や、圏央道を始めとする道路網の整備進展など、交通ネットワーク・アクセスの強化が図られたところでございます。

戦略4は、大会の開催を契機に、本県を訪れる誰もが、障害や年齢、国籍等を問わず、観戦や観光を楽しめる地域づくりを目指した、ハード・ソフト両面からの「バリアフリー化の促進」です。ハード面では、幕張メッセ周辺のバリアフリー化や成田空港における障害のある方が参画した下でのユニバーサルデザイン化が実施されたほか、駅のホームドア整備、福祉タクシー及びノンステップバスの導入が進みました。ソフト面では、交通や観光事業者の人材育成や、オリパラ教育における心のバリアフリー推進、経済団体による「声かけ・サポート運動」などが実施され、「ちばバリアフリーマップ」やバリアフリーツアー等、情報提供の充実も図られました。

4ページ目を御覧ください。戦略5は、「魅力ある観光地づくりとおもてなし力の向上」です。公衆無線 LAN や観光公衆トイレ、観光案内板等が各地で整備されたほか、1,600 の事業所が参加した清掃活動等のおもてなしに取り組むキャンペーン、観光ボランティアの養成講座やおもてなし研修会が実施されました。また、市町村においては、地域の観光資源を磨き上げることによる地域活性化を図る主体的な動きも見られたところです。

戦略6は、戦略5と関連した、将来の訪日外国人の増加を見越した、「外国人受入体制」です。観光案内板や車両誘導標識など観光関連施設の多言語化や、通訳ボランティア・観光ボランティアの育成に加え、安全・安心の確保を図る観点から、ちば救急医療ネットにおける多言語での問診票掲載や防災ポータルサイトの多言語化等も進みました。また、外国人へのおもてなし力の向上に向け、商店街の皆さんの多言語対応を高めるセミナーの開催や、多言語コミュニケーションシートの作成などが行われたところでございます。

5ページ目を御覧ください。戦略7は、「危機管理・安全対策」です。地震や風水害、テロ・サイバーテロへの対応として、官民合同での訓練を大会前から繰り返し実施したほか、会場周辺に避難誘導看板の整備等を進めました。更に、移動交番車等を運用し、防犯対策を強化したところです。このほか、ロードプライシングの導入を始めとする官民連携での交通混雑緩和に向けた取組も進めました。

戦略8は、「機運の醸成・国際交流の促進」です。大会に向けた機運を高めるため、官民一体でのカウントダウンイベントの開催に加え、県民音楽祭、ちばアート祭などの文化プログラムの展開、新たなデザインとして、「スポーツを応援するチーバくん」の作成や活用、九十九里・外房地域の市町村によるビーチクリーン活動等が行われました。ボランティア機運も高まり、定員 3,000 名の

都市ボランティアには、6,546名からの応募があったほか、年齢が満たない小中高校生も「ちよいボラ」の活動に参加しました。残念ながら対面での都市ボランティアの活動は見送られましたが、オンラインでの県の魅力発信やお見送りなど、限られた機会でも工夫を凝らした取組が行われたところでございます。このほか、全公立校を始め各学校でオリパラ教育が実施されました。特に、オリパラ教育については、パラリンピックの閉会式において、県内の学校が「I' mPOSSIBLE アワード」を受賞しましたが、日本の受賞校2校とも、県内の学校という快挙でした。

最後に、6ページ目を御覧ください。戦略9は、「戦略的な千葉の魅力発信」です。大会の開催は、本県の国際的な魅力や知名度を高める絶好の機会であるとの認識の下、グリーン・ブルーツーリズムの推進やちば文化資産の選定等、本県の多様な魅力の掘り起こしを進めるとともに、千葉県イメージCMの放映や、「チーバくん大使」に任命した留学生等による情報発信、現地海外旅行会社の招聘などに取り組んできました。また、無観客となり、各種のイベントが軒並み中止になるなど、大会時の魅力発信が大きな制約を受ける中でも、東京都メディアセンターでの情報発信や、産業展でのブース出展などを行ってきたところでございます。

資料1に関する説明は以上でございます。

続きまして、資料2「オリンピック・パラリンピックのレガシー活用（案）」について御説明いたします。

これまで本会議を通じて、企業、団体、大学、市町村の皆様と方向性を共有し、それぞれが相互に連携しながら、大会後も見据えた取組を進めてまいりました。その結果、資料1で御説明させていただいたとおり、多様な分野に渡る取組が県内各地で進展したところでございます。

これらの取組は、大会の開催が取組のきっかけや一層の推進の契機となったものでありますが、本県の将来のために必要な基礎・土台となる取組であり、大会のレガシーとして、これまでの歩みを着実に引き継いでいくものと考えております。

また、東京2020大会における千葉県の特色があるからこそ、新たに生まれてきた動きもでございます。千葉県にとっての特色としては、一つ目として、首都圏に有りながら三方を海に囲まれているという自然に恵まれた環境の中で、オリンピック初のサーフィン競技が開催されたこと、また二つ目として、開催都市である東京都に次ぐ、パラリンピック4競技が幕張メッセという1つの施設内で開催されたこと、三つ目として成田空港が大会の公式空港として選手・関係者の玄関口となったということが挙げられます。

例えば釣ヶ崎海岸周辺では、サーフィン競技初の開催地としての知名度の向上もあり、サーファー向けの店舗や住宅の立地が相次ぐとともに、テレワークやワーケーションなど新たな

生活モデルを先取りする動きも見られております。

また、開催都市である東京都に次ぐパラリンピック競技の開催地となったことで、「満員の観衆で世界から選手・関係者の皆さんをお迎えしよう」、「パラスポーツを盛り上げていこう」と、経済界を始め、県内各地で多くの皆様が自主的に、創意工夫を持って進めた数々の取組は、障害のある方への理解を深め、今後様々な分野での社会参加促進につながっていくものと考えております。

このほか、競技会場周辺だけでなく、大会の公式空港である成田空港や、千葉市・浦安市などの選手・関係者の宿泊地等での都市ボランティアを始め、多くの県民の方がそれぞれの個性を生かし、多様なボランティア活動に取り組みました。また文化の祭典としての観点から、大会の文化プログラムとして、県民参加により「ちば文化資産」が選定されるなど、本県の文化的な魅力の再認識も図られたところでございます。これらの取組・動きは千葉県としても大変貴重なものであり、本県独自のレガシーとして、特にしっかりと進めていくべきものと考えております。

県では現在、次期総合計画の策定を進めております。その中では、今御説明したレガシーの活用に係る考え方を、県全体の様々な分野の取組に広く共通する横断的な視点として位置付け、各部局が認識を共有し、各施策に反映させながら、県内全域に波及させていきたいと考えております。

オリンピック・パラリンピックを通じ、多様な主体による様々な分野からの取組が今回行われました。これらを一過性のものとすることなく、スポーツや文化を通じた地域の活性化や共生社会の実現を進め、本県の持続的な発展につなげていきたいと考えております。また、共生社会の実現という部分につきましては、誰もがその人らしく生きる、わかり合える社会の実現と言えますが、いろいろな施策が絡み合いながら進んでいくものと考えますので、総合計画の中で、目指すべき姿としてお示ししていきたいと思っております。以上でございます。

**○内田オリンピック・パラリンピック推進局長** それでは、ただ今御報告させていただきました内容につきまして、委員の皆様より御意見を伺いたいと思います。まず、事前に御意見をいただいております委員の皆様につきまして、事務局の方から順番に御指名させていただきますので、御発言をお願いいたします。初めに新倉副議長、よろしくお願いいたします。

**○新倉副議長** ありがとうございます。事前に私なりに感じたことを何点かお示しいたしました。

まず、コロナ禍にもかかわらず、オリパラの開催に向けて御尽力くださった皆様、本当に長期に渡る大変な作業をありがとうございました。お礼申し上げます。

まず一つ目ですけれども、今後オリパラの取組をレガシーとしてどう残し、発展させていくのかということを検討されるということでしたけれども、その最初の段階の一つ加えていただきたいのが、できるだけ早くオリパラ開催後の人々の意識がどう変化したのか、千葉の人々の意識の変化

について分析していただければと思っております。意識の変化の内容分析というのが次なる戦略を立てる上で、総合計画を立てるということでしたので、それを立てる上で有用な資料となっていくかと思えます。できるだけ早くと申し上げたのですけれども、今後も自主的に継続していく活動もあろうかと思えますけれども、やはり、サポートする組織が少なくなってくれば活動は徐々に下火になってきます。ましてオリパラに関わっていない一般の人々に及んでは、継続的な働きかけが無いと一過性の出来事として一気にその熱が冷めてしまうというのが、過去のオリンピック・パラリンピック、他国でも起きていることでした。ですので、そのようなことを踏まえて、大掛かりな調査でなくてもよろしいかと思えます。人々の熱の冷め切らないうちに、ボランティアで関わった人々と、それから関わりを持たなかったけれども一般の人々、それぞれに紙媒体、あるいはネット調査、あるいは聞き取りヒアリングであったり、いくつかの方法で意識の変化を検証していただくと、戦略構築の有用な資料になってくるのかなと思っておりますので、大変だと思えますけれどもお願いをしたいと思っております。

それからもう一点は資料2のことですけれども、オリンピックはもちろんですけれども、パラリンピックをレガシーとして今後どう活用していくのかということが、私個人的には非常に大きな課題であると思っております。パラリンピックに関しては、一般の私たち、あまりスポーツあるいは障害者スポーツに興味関心のなかった人にも、大きな感動と気づきを与えてくれたということはあちこちで言われていることですし、この気づきをどう発展させていくのかということが重要な課題だと思っております。一例ですけれども、学校教育の中で取り組んできたパラリンピック教室がありましたけれども、あれは教育的意義が本当に大きかったと私自身は思っています。ただ、その一方で、活動に取り組んだ教師の中から、「これはオリパラで予算化された取組なので、その支援が無くなってくると、今後活動自体が縮小されていくんじゃないか」という危惧も発せられていることを耳にしました。これは、子供のころから学校あるいはクラスで、パラスポーツを一緒に行う、分けてやる必要は全くないわけで、一緒にやっていくということを当たり前にする絶好の機会でもあったと思うんですね。この違いを認識して受け入れる過程で、子どもたちはこういう活動の中から様々なことを学んでいくので、共生社会に向けてということであれば、最初のステップとして大事にさせていただきたいと思っております。県の継続的な御協力があるとありがたいと思えます。

それから最後の一点で、開催準備課長からもお話がありましたけれども、繰り返しになりますが、千葉独自の理念と目的をより明確にして方向性を打ち出していきたいという思いがあります。千葉県が何を目指すのか、千葉県らしさのある具体的なイメージが浮かぶ内容として、具体性を

持った形での方向性を打ち出していただければ、わかりやすく皆さんも活動がしやすくなるのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

以上感じたことです。

○内田オリンピック・パラリンピック推進局長 ありがとうございます。ただいまの御意見につきまして事務局からの説明をお願いいたします。

○関開催準備課長 ありがとうございます。委員おっしゃられましたように、人々の意識の変化について見ていくということは大変重要だと県としても思っており、一般の方も対象にした意識の変化については、今回、障害者スポーツの体験や観戦経験等を含めながら、アンケートを大会後の9月から10月にさせていただいております。現在取りまとめを行っているところでございまして、こちらの取りまとめが終わりましたら、委員の皆様にご提供させていただきたいと思っております。また、ボランティアにつきましては、今後のボランティア活動への参加意向や、今回の経験を今後どのように生かしていくか、この部分につきまして、これから意向の調査をしていきたいと思っております。また、ホストタウン交流等につきましても、今後の活動の方向性等について調査をしていきたいと思っております。

また、二点目の学校教育の中でのパラリンピック教室の部分でございまして、こちらは県といたしましても御指摘のとおり、大きな教育的な意義があったものと考えており、今後もパラアスリートによる特別授業などを進めていきたいと考えております。また、その方法については、今回の部分の反省等を含めながら、現場の先生方とも相談しながら進めていきたいと思っております。

三点目の千葉県らしさのイメージを持ってという部分については、検討させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○新倉副議長 ありがとうございます。

○内田オリンピック・パラリンピック推進局長 新倉副議長よろしいでしょうか。

○新倉副議長 はい。ありがとうございます。よろしく願いいたします。

○内田オリンピック・パラリンピック推進局長 ありがとうございます。続きまして、増田委員お願いできますでしょうか。

○増田委員 こんにちは。増田です。よろしく願いします。

まず、千葉の幕張メッセで7競技が行われて、あと釣ヶ崎海岸でサーフィンが行われて、それがすごく成功に終わったことをうれしく思います。

そんな中で先ほどからレガシーの話をされていますが、これからもっとこの風を受けながら盛り

上がっていくためには、やっぱり国際大会とか国内大会なんかを同じ幕張メッセでやるとか、釣ヶ崎海岸でやるということもあると思うのですが、ウィルチェアラグビーなんかはもうやられています、他の競技でこれから国際大会を招致しようとか、国内大会を招致しようという動きはあるのでしょうか。予算的なことも関係してくると思いますが、そういう予算の確保なども含めてどのような方向性を考えているのか、まず一つ伺いたいと思います。

**○関開催準備課長** ありがとうございます。委員おっしゃられるように、例えばウィルチェアラグビーですと、千葉市による車いすスポーツの聖地化を掲げた取組の成果として出てきているものもありますが、こういう動き自体を更に県全体に広げていくということが必要と考えております。また、障害の有無や種別にかかわらず、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりを進めていく観点からも、観戦の機会を増やしていくということは大変重要だと考えているところでございます。

ただ、委員御指摘の大会の誘致につきましては、どの競技がどのような時期に、また会場はどのような施設があるのか、そういう部分も総合的に調整しながらでないとなかなか難しい部分もあると思いますので、そのあたりを検討していきながら、どのような大会が適するのと考えていきたいと思っております。

**○増田委員** 一つ細かいことなんですけれども、私の実家がいすみ市なんです。いすみ市の隣が一宮町で、まさにサーフィン会場の釣ヶ崎会場があるんですけども、サーフィンの行われた場所を車で通っていると、今はまっさらな状態ですよ。施設が全くなくて、トイレっぽいものが一つぐらい残っているのかなと思います。これから釣ヶ崎の海岸なんかをサーフィンの聖地として考えていくのでしょうか。また、施設などについてはあのまままっさらな感じで、あとはお店やショップに任せるといった感じなんでしょうか。

**○関開催準備課長** お答えさせていただきます。委員がおっしゃられるところは多目的施設ということで大会の中で作らせていただいたものでございます。サーフィンの聖地というものは我々も考えておまして、多目的施設を今後有効に活用していくということについて、今まさに一宮町や地域の方と検討を進めさせていただいているところでございます。その中では、今回大会の中で作らせていただいた、ミライトワがサーフボードに乗っているモニュメントなど、いろいろレガシーとしてきちんと残していくものをここに集めさせていただきたいと考えております。

**○増田委員** わかりました。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

**○内田オリンピック・パラリンピック推進局長** 増田委員よろしいでしょうか。

**○増田委員** はい。ありがとうございました。

**○内田オリンピック・パラリンピック推進局長** では、続きまして吉村委員の代理で順天堂大学の青木先生お願いいたします。

**○順天堂大学 青木学部長補佐** 順天堂大学の青木でございます。吉村に代わりまして御報告させていただきます。これまで順天堂大学は県のオリパラ局ともいろいろと連携させていただきながら、戦略1・2に携わらせていただきました。特に体操競技においては、橋本選手の金メダル、そして順天堂大学出身の学生のメダル、そして陸上につきましても活躍があったというところは御報告のとおりかと思えます。パラリンピックにおきましても、本学の学生から選手が出場しました。一方で本学としては、戦略8のオリパラ教育の部分も非常に頑張っており、特に特別支援学校のパラ教育のサポートに取り組みました。レガシーの活用としては、国際交流の推進・パラスポーツの推進という部分につきましては、現在も近隣の小学校で体験会を実施しているほか、県や市町村、そしてひいては企業様とも連携をしながら進めていきたいという決意でございます。今後とも御指導のほどよろしくお願いいたします。

**○関開催準備課長** ありがとうございます。順天堂大学におかれましては、2015年の世界陸上北京大会に係る事前キャンプ受入れを契機といたしまして、県及び印西・佐倉・成田の3市と連携して、アメリカ陸上競技チームの事前キャンプ受入れに係る取組などを進めていただきました。

残念ながら、アメリカ陸上チームの事前キャンプは最終的には中止となってしまいましたが、東京2020大会に向けた様々な取組の中でも、県、市町村、大学の連携による代表的な好事例となったと考えております。改めまして、吉村先生、青木先生の御理解・御協力に感謝申し上げます。

先生御指摘のとおり、「国際交流の推進」、「パラスポーツの振興」は今後も継続していかなければならないものであり、県や市町村、大学など多様な主体が相互に連携しながら取り組んでいく重要性というものは決して変わるものではないと思っております。

競技力の向上・スポーツの普及や、オリパラ教育の部分での連携を含めまして、これまで順天堂大学と培ってきた経験自体が、大会の貴重なレガシーであると考えておりますので、今後も引き続き、御指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。

**○内田オリンピック・パラリンピック推進局長** 青木先生よろしいでしょうか。では、続きまして渡辺委員、お願いいたします。

**○渡辺委員** こんにちは、渡辺です。まず、東京オリパラの千葉県の大会に御尽力いただきありがとうございます。無事に終わって何よりだと思っております。私の方は先ほど御説明がありました戦略5の「魅力ある観光地づくり」、戦略6の「外国人受入体制」の部会長をやらせていただきました。その中で、旅館・ホテル、タクシーなど交通機関、様々な方に御尽力いただき、

何とか無事に終わったことにお礼申し上げたいと思います。なかなかこういう機会が無かったもので、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

そういった中で、レガシーに関して、少し私の視点を。観光地域づくりというのが専門でございまして、現在、鴨川の方のスポーツコミッションのウェルネススポーツ鴨川の代表理事をやっているという経験もありまして、どうも長期的なレガシーということで、今回の短期的な形の直近のレガシーとは少し色合いが違うので、すぐ千葉県さんにどういう風にやってほしいということではないのですけれども、この視点がやはりかなり抜けているなという風に思っています。これはどういうことかといいますと、「住んでよし、訪れてよし」という形の中のスポーツのあり方、観光のあり方を地域社会の中で捉えていかないと、なかなか本当に魅力ある観光地域にならないだろうと。つまりそれは、今回、受入環境の整備とか、多言語対応という形で非常にいい成果、一定の成果が上がったことを評価したいと思っていますけれども、やはりそれと同時にソフト面というのですか、地域社会の方々が観光なりスポーツをどう捉えていくかということに関して、軸の長いレガシーというのを少し考えていただければありがたいと思っております。少し欲張ったレガシーかもしれませんが、先ほど課長さんがおっしゃったように、それが千葉県の独自の魅力につながってくると思います。ぜひ御検討いただければありがたいです。いろいろお世話になりました。ありがとうございました。

**○関開催準備課長** ありがとうございます。鴨川スポーツコミッションさんの方でスポーツツーリズムや地域のパワースポットなどを含めたいろいろな企画をされていると承知しております。今後、千葉県が発展していく中では、今おっしゃられたように自然の中にある千葉県の魅力と、そして地域とスポーツの魅力、文化の魅力、そういったものをまとめながら地域に根付いた形にしていかなければならないと思っておりますので、またいろいろ御指導いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

**○渡辺委員** どうもありがとうございました。

**○内田オリンピック・パラリンピック推進局長** 続きまして、大澤委員につきましては、本日御欠席されておりますが、事前に御意見をいただいておりますので、事務局から御紹介させていただきます。

コロナ禍に伴い年単位で作りに上げた計画とそれに基づく準備どおりの開催ができなかったことは残念ですが、県関係部局をはじめ県内市町村、企業、団体、ボランティアの皆様など、オリパラに関わった全ての団体・個人の皆様に感謝申し上げます。

海浜幕張駅とメッセ、一宮町・釣ヶ崎海岸にオリンピック・パラリンピック開催地を示すメモリ

アル建造物が必要だと考えます。テレビ局の旅番組をはじめメディアや観光客、来訪者が一緒に撮影したくなる「インスタ映え」するような、分かりやすく長く歴史に堪えうるデザインが望ましいと思います。

レガシー効果の県内波及のため、オリパラに出場した県内選手、コーチら関係者を大学、小中高校に派遣して、特別授業や講演会を開催してスポーツの素晴らしさや多様な生き方を学ぶ場としてはどうかと思います。もちろん、資料2にあるような取組も推進していただくことが重要であることは、言うまでもありません。

以上でございます。ただいまの御意見につきまして、事務局から回答をお願いします。

**○関開催準備課長** 増田委員から御発言いただいたところと重なりますけれども、メモリアルオブジェ、記念碑等につきましては、後世に大会の記憶を残し、県民の皆様が思い起こすことができるように、幕張メッセと釣ヶ崎海岸に、大会公式マスコットのモニュメントとオリパラ開催を示した銘板等をまず設置していきたいと考えております。

その中では、御指摘いただいた「分かりやすく長く歴史に堪えうるデザイン」、これについても、よく検討しながら進めていきたいと思っております。

また、選手や関係者による特別授業や講演会につきましては、次代を担う青少年たちが、多様な生き方を学んでもらえるよう、競技団体等と連携した特別授業として、学校訪問や体験会を開催していきたいと考えております。以上でございます。

**○内田オリンピック・パラリンピック推進局長** 事前にいただきました御意見は以上でございます。ほかに御意見のある委員はいらっしゃいますでしょうか。

御意見ございませんようですので、これまでとさせていただきます。

それではこれまでの報告及び意見交換を受けまして、熊谷会長から発言をお願いいたします。

**○熊谷会長** 委員の皆様には御意見をいただき、ありがとうございました。

まず、戦略に基づくこれまでの取組の総括については、これだけ多くの取組が、多くの分野で主体的に、そして創意工夫を凝らして、進められてきたことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。

国際交流の推進や外国人の受入環境の整備を進めてきたわけでありますけれども、私ども成田空港を抱える千葉県として、また外国人住民が今後も増加をしていくことが確実になっている、そうした中でこうした取組は今後も重要だと考えています。また、ハード・ソフト両面からのバリアフリーの推進、こうした取組は、今後も引き続き県内各地で展開されていくと考えています。

また、委員の御指摘にもありましたとおり、こうしたものをどのように行政だけではなくて、

住民の皆様方、地域がそうした部分を理解し、そして高めていっていただけるかというのも重要だと思っています。

また、サーフィン競技、オリンピック史上初の開催となりました。モニュメントもそうでありますし、町づくり全体でそれを生かしていかなければいけないと考えております。サーフィンの開催地となった、またサーフ文化、こうしたものをどのように、一宮を中心とした地域で発揮をして、活性化につなげていけるのかが重要だと思っています。

また、大会の開催というお話もございました。やはり 2020、1年延期して 2021、こうした大きな目標があったからこそ、官民の力が結集できたと考えております。今後障害者スポーツも含めて、どのような年次でどのような大会を誘致して、皆様方とまた同じように官民の力を結集して、その目標年次に向かって進んでいくのか。こうした取組ができるように、しっかりと内部で検討させていただきたいと思っております。

また、パラリンピックを通じた部分でありますけれども、障害のある方もない方も共に交流できる、共生できる、そうした共生社会を実現していくために、委員からも御指摘いただいたとおり、学校教育におけるそうした積み重ねが 2021 年以降もしっかりと継続をし、更に発展していくように教育界とも連携をしていきたいと思っております。

また、パラリンピックは身体障害者を中心とするスポーツではありますがけれども、ほかにも知的障害者のスペシャルオリンピックスであったり、デフリンピックというものもありますので、より多様な障害者のスポーツにも注目がいくようにしていきたいと思っております。

最終的には総合計画などでも定めてまいりますけれども、障害者の方々のスポーツ習慣、そして障害者スポーツの環境の整備や支援、更には障害者の方々の社会参画の促進、こうしたものが千葉県のパラリンピックを開催したレガシーとして、しっかりと本県の特徴になるように取り組んでまいりたいと考えています。

また、ボランティアに関して、こちらは残念ながら当初想定されていた十分な活動はできなかったと思っておりますけれども、ボランティアに手を挙げていただいて、大会開催までに様々な形でスキルアップをしていただいたり、創意工夫をしていただいた、そうしたレガシーをいかに他のスポーツであったり、また様々なボランティア活動に展開をしていけるか、この辺りの思い、情熱を次の展開につなげていく仕掛けづくりにも取り組んでいきたいと思っております。

また、今回の大会の特徴として、サーフィン、スケートボードといった新しい新種目が注目を集めました。どうしても、こうした競技が、今までは行政であったり年配の方も含めたそうした評価ではまだまだ十分ではなかったものが、オリンピックを通してかなり認知度と理解度が進んで

きたと思っています。2024年のパリの大会では、ブレイキン、ブレイクダンスが入るなど、そうした新しい若者を中心とした文化やスポーツに関しても、私たち千葉県としては積極的に取り組んでいきたいと考えています。

東京2020オリンピック・パラリンピックは閉幕をいたしましたけれども、この大会が、スポーツ・文化を通じた地域の活性化、共生社会の実現に向けたターニングポイントだと我々は考えています。

県としては、一つ一つ前に進めていきたいと考えております。引き続き、皆様の御意見をいただきながら進めていきたいと思っております。御理解・御協力、引き続きよろしくお願いたします。

**○内田オリンピック・パラリンピック推進局長** ありがとうございます。続きまして、佐久間議長から御発言をお願いいたします。

**○佐久間議長** いろいろな視点から御意見をいただきまして、ありがとうございます。

これまでの取組について御報告を受け、大会の成功に向けて、関係者一人一人が熱意を持って、主体的に、そして相互に連携しながら、取組を進めてきたことを改めて認識いたしました。感謝申し上げます。

私自身、県内経済6団体が結成した、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」の会長として、「パラリンピックのフルスタジアム実現」を合言葉に、県内企業が一体となって「スポーツを応援するチーバくん」のポスターやミニのぼり、ステッカーの掲出や、県と連携してのカウントダウンイベントの開催、「声かけ・サポート運動」などに取り組んだことが印象に残っています。

また、私事ではありますが、聖火リレーに参加させていただきました。残念ながらトーチキスの形となりましたが、素晴らしい経験をさせていただきました。

関係者が一丸となって、工夫を重ねながら実現してきたこれらの取組につきましては、決して一過性のものとはならず、その取組自体が、官民連携のレガシーとして残っていくものと考えています。

私も大事なことはこれからだと考えています。スポーツと文化の祭典として、オリンピック・パラリンピックという枠組みは終わりましたが、本日皆様からいただきました御意見を今一度皆が心に刻み、千葉県の持続的な発展に向け、各々の立場で、スポーツや文化を通じた取組に尽力いただきたいと思います。引き続き、皆様方の御理解・御協力をお願いいたします。ありがとうございました。

**○内田オリンピック・パラリンピック推進局長** ありがとうございます。以上で議事について終了いたします。皆様、議事進行に御協力いただき、誠にありがとうございました。

そのほか、推進会議の今後の予定につきまして、事務局より御報告させていただきます。現在、県では、新たな千葉県総合計画の策定を始め、今後の施策の検討を行っております。本日皆様からいただきました貴重な御意見も踏まえまして、引き続き検討を進め、年度末を目途に次回の推進会議を開催いたしまして、県総合計画あるいは来年度予算につきまして御報告した上で、本会議については、活動を終了とさせていただきたいと考えております。

次回の会議開催につきましては、改めて御連絡させていただきます。

#### (4) 閉会

○司会 それでは、これもちまして会議を終了いたします。

本日の議事内容につきましては、議事録を作成しまして、千葉県のホームページ上で公表いたします。内容につきましては、後日確認をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、大変お忙しい中、どうもありがとうございました。